

# 令和4年度 学力向上プラン

学校名 中央区立城東小学校

## 学校の教育目標

- |                 |                 |               |
|-----------------|-----------------|---------------|
| ○心豊かで思いやりのある子   | ○自ら考え学ぼうとする子    | ○進んで正しいことをする子 |
| ○最後までねばり強くがんばる子 | ○健康に気をつけ体をきたえる子 |               |

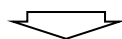
教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

- |                             |
|-----------------------------|
| ○子どもが分かる授業                  |
| ○基礎・基本の学力の定着と思考力・表現力・判断力の育成 |

令和4年度「学習力サポートテスト」や令和4年度学力向上プランの検証結果、学校評価の結果等によって明らかになった課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度学習力サポートテストにおいて、ほとんどの観点で校内平均正答率が全国の平均正答率を上回っている。4年生の「漢字を書く」、6年生の「漢字の由来」が全国正答率を下回っている。</li> <li>6年生の「話すこと・聞くこと」が他の領域よりも低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「漢字を書く」の課題については、前学年に配当されている漢字を正しく身に付けるための反復練習が十分でなく、由来も理解できていない。</li> <li>意図に応じて話の内容を捉えることができていない。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度学習力サポートテストにおいて、4年生と6年生はすべての観点で全国の平均を上回っているか同程度である。一方、5年生の直方体のある面に平行な辺の理解、折れ線グラフから変わり方を読み取るの2つが目標値を下回っている。</li> <li>どの学年も2極化傾向が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>立体の理解やグラフの読み取りが定着していない児童が多数いる。作図やグラフの読み取りの経験を重ねていく必要がある。</li> <li>問題解決型学習を通じた基礎・基本の定着状況に課題がある。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度学習力サポートテストにおいて、社会的事象について複数の資料をもとに考えたり、工夫していることについて考えたりすることに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料の読み取り、活用する力が不十分であるために、自分の考えを記述することに影響が出ている。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度学習力サポートテストにおいて、全体の平均正答率はどの学年も中央区の平均を上回っているか同程度であるが、個別に見ると「身近なしぜんのかんさつ」「太陽と地面のようす」の正答率が他の問題に比べて正答率が若干低い。</li> <li>乾電池の向きを入れかえたときの車の進む向き、水を熱したときの温度変化を表す折れ線グラフをもとに水の量のちがいと沸騰する温度を関連付けて記述する問題が目標値を10ポイント以上下回っている。乾電池の問題は区の平均を20ポイント以上下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体的に「自然」や「植物」を扱った問題に課題が見られる。コロナ禍による休校や校舎移転の影響で実体験を伴った学習が十分にできなかったことが一因と考えられる。</li> <li>算数同様グラフの読み取りができていない。また、複数のものを関係付けることを苦手としている。考察をより丁寧にしていく必要がある。</li> </ul>
英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>読むことの領域の正答率が低い。</li> <li>観点別では、知識・技能の正答率が、区の平均より下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道案内や、日常生活に関する対話を聞き目的や場面状況などを推測することを理解していない児童がいる。</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>体力テストにおいて、ソフトボール投げが全国平均より下回っており、投げる運動に課題がある。</li> <li>長座体前屈が全体的に課題となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ソフトボール投げについては、遠投する力を身に付ける取組が十分には設定できなかったことが原因の一つと考えられる。</li> <li>柔軟運動などの体作りの運動を行う機会が十分ではなかった。</li> </ul>

学力向上に向けた視点		年度末までの目標及び指標
① 各教科	国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の習得については、学期末や学年末の確認テストにおいて、平均正答率が80%を上回る。</li> <li>話し合い活動を充実させ、学期末や学年末の確認テストにおいて、平均正答率が85%を上回る。</li> </ul>
	算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>「立体」や「グラフ」の内容について、学習力サポートテスト正答率が、区の平均に到達する。</li> <li>問題解決型学習を通して、基礎・基本の定着を図る。学期末や学年末の確認テストにおいて、「知識・技能」の平均正答率が85%を上回る。</li> </ul>
	社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会的事象について複数の資料をもとに考えたり、工夫を考えたりすることに慣れ、学期末や学年末の確認テストにおいて、「思考・判断・表現」の正答率が80%を上回る。</li> </ul>
	理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然に関係する内容について、学習力サポートテスト正答率が中央区や全国平均を上回る。</li> </ul>
	英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>語彙を増やし、自分の気持ちを英語で表現して対話することに慣れる。</li> </ul>
	体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>ソフトボール投げの平均記録を、前年より1m伸ばす。</li> <li>長座体前屈の平均記録を、前年より3cm伸ばす。</li> </ul>
②授業改善		<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>タブレット端末を中心にICT機器を利用して、視覚的、体験的な活動を深める活動を多く取り入れる。</li> <li>ドリルパークを活用して、定着が不十分な児童が反復して取り組む機会をつくる。</li> <li>校内研究で指導法だけではなく小グループや発表の仕方などを工夫し、問題解決型学習の成果を普段の授業に取り入れていく。</li> </ul> <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価の保護者アンケート「学校は発達段階に応じてタブレット端末を活用している」の項目において、肯定的な回答が85%以上となる。</li> </ul>
③家庭との連携		<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校日より、学年の連絡、校内研究などをGoogle Classroomに掲載して、定期的・計画的に情報の共有を行い、学校の方針、取組等を保護者にきちんと伝え、子どもの成長を共に支えてもらえるようにする。</li> </ul> <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価の保護者アンケート「学校は保護者に出す文章や連絡等は、わかりやすく内容も適切である」において、肯定的な回答が85%以上となる。</li> </ul>
④体力向上		<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運動量の確保とマイスクールスポーツにより、児童の基礎体力の向上を図る。</li> </ul> <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童の運動に取り組む満足度による肯定的な意見が85%以上となる。</li> </ul>



### 【目標達成のための具体的な取組内容】

① 各教科	
国語	<p>授業中に、タブレット端末を活用し、ドリルパークなどで漢字を繰り返し練習する時間を設けて定着を図る。また、丁寧な読み取りを重視した指導を行う。また、学習の中でペアやトリオなどさまざまな形態での話し合い活動を取り入れ、適切に話したり要点をまとめたりする時間を計画的に設定し、話す・聞く力を育成する。</p>

算数	授業やアフタースクール、朝学習の中で、学年の課題となっている項目を中心に、東京ベーシック・ドリル、ドリルパーク等を活用し、各学年での基礎学力の定着を図る。
社会	資料の読み取り、活用する機会を意図的に取り入れ、自分の考えを記述する活動を毎時間ごとに行う。
理科	タブレット端末や大型提示装置、実物投影機等を活用して事象提示や記録方法を工夫し、体験的な学習活動を補完する。
英語	Classroom Englishを増やすために、掲示物を充実させ、発話につなげる。ALTと個別に対話する時間を各児童が学期に1回はもてるようにする。
体育	年間を通して、授業中にボール投げなどボールを自在に扱う運動を短時間・複数回取り入れたり、準備運動に短時間で効果的な柔軟を毎回取り入れたりする。外部指導員による投げ方教室などでの指導の定着を図る。

## ②授業改善

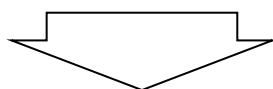
取組Ⅰ	タブレット端末や大型提示装置、実物投影機等を活用して事象提示を工夫し、様々な資料に触れさせ読み取る機会を増やしたり、実際には見ることのできない映像を見て、体験的な学習活動を補完したりすることで授業改善を図っていく。
取組Ⅱ	校内研究を生かし、生活科・理科・算数の授業を中心に、問題解決型の学習活動を展開することで、筋道を立てて説明する場を設け、授業改善を図っていく。

## ③家庭との連携

取組Ⅰ	全校保護者会の前に、管理職から保護者への学校の取組について説明の機会を設定することで、家庭との連携を高める。
取組Ⅱ	入学前の家庭に対して、面談を行う。また、1学期に全学年個人面談を行うことで、家庭との連携を高める。
取組Ⅲ	学校だより、学年の連絡などをGoogle Classroomに掲載するなど、ICTを活用して学校の様子を保護者に知らせていく。

## ④体力向上

取組Ⅰ	短縄、長縄の取組のキャンペーンを設定し、全校で取り組み、体力向上に努める。
取組Ⅱ	外部の講師を招き、投げ方教室、走り方教室など各種スポーツ教室を行い、体力向上や技能向上に努める。



## 【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点		取組の成果	取組の課題及び解決策
① 学力基盤	国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の学習では、ドリルパークなどを通して定着を図った。その結果、どの学年でも年度末には確認テストで80%以上の定着が見られた。</li> <li>話し合い活動においても、タブレット端末を活用し、クラス全体の様々な意見を読み取る機会を設けた。その結果、自分の考えとの相違を感じ、相手の伝えたいことを理解しようと努力する姿が見られるようになった。</li> <li>要点・要旨をまとめる活動を計画的に取り入れるなどしたことにより、簡潔に書くことができる児童が増えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定着率の低い児童もいるので、継続的な指導を必要である。</li> <li>「意図に応じて話の内容を捉える」ことが不得手である。観点を示したり、話し合いの形態を工夫したりしながら、今後も継続的に話し合い活動を行っていく。</li> <li>文章を書くことが苦手な児童もいるので、行事ごとの作文や日記などを授業中や宿題にも取り入れていく。</li> </ul>
	算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>作図の基本となる「直線を引く」「四角形と三角形」などの学習を、より丁寧に行った。小グループを編成し2人の教員が一人一人丁寧に指導することで全員が作図の基本を身に付けているか確認しながら定着させることができた。</li> <li>どのような式になるか図や言葉を使って表し考えを発表させることに時間をかけ、問題解決型学習の基礎を身に付けさせた。その結果、問題文から立式につながる言葉を進んで読み取ったりテープ図に自ら表したりできるようになってきた。</li> <li>朝学習でドリルやドリルパークを活用し、計算など基本的な学習が身に付いて児童が増えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>立体の理解やグラフの読み取りについては、8割以上の児童が身に付いている。折れ線グラフの読み取りに課題が残ったので、日常生活の中から触れさせるようにし、読み取りの経験を重ねていく。</li> <li>問題解決型学習を通じた基礎・基本の定着状況に課題がある。児童同士学び合えるような話し合いの方法や形態を工夫してきたが、単元や習熟度別クラスなどによって、効果的になるよう臨機応変に対応していく。</li> <li>宿題やアフタースクールを含め、日常的な学習を継続していくことが必要である。</li> </ul>
	社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料の読み取りや活用する機会を意図的に取り入れた。学習課題に対して予想をさせ、資料からの読み取り、分かったことを伝え合う活動を通して、資料を読み取る力と、自分の言葉で伝える力が身に付いた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料の読み取りの充実を図ってきたが、知識的に身に付いても経緯や事象を説明できることに課題が残った。特に、雨温図の読み取りに課題が残り、算数とリンクさせていく必要がある。読み取る力、表現力が身に付くのに時間がかかるので、継続的・系統的な指導が必要である。</li> </ul>
	理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験計画での用具操作や実験、Jタイムでの課題研究を通して体験的な学習活動を展開することができた。</li> <li>実物投影機等を活用したり、実験活動を多く取り入れたりし、体験的に学習内容を身に付けることができた。また、実験をすることで、新たな課題が生まれた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年での重点の明確化と発達段階、学習段階に応じて手立てを継続的に行っていく必要がある。</li> <li>「身近なしぜんのかんさつ」では、虫めがねの使い方のみ正答率が53.8%であった。実験する前に、道具の使い方について、より習得させていく。また、理由を推測したり記述したりすることに課題が残った。考察に時間をかけていく必要がある。</li> </ul>

	英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 掲示物を充実させ、普段から簡単な英語を使えるような環境にした。ALTとの挨拶が円滑にできるようになり、コミュニケーションによる発話ができるようになってきた。</li> <li>・ ALTと個別に対話する活動を毎回取り入れ、単元ごとにパフォーマンステストを実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を身に付けている」が目標に程度か下回っている。より英語に触れる環境にしていく必要がある。</li> <li>・ 「道案内の情報を聞き取り、内容を理解する」が目標値を下回っている。実際のやりとりの活動を重視し、習得を目指す。</li> <li>・ 発話を意識した指導計画とALTとの打合せを充実させ、英語で話せる時間を確保していく。</li> </ul>
	体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年間を通して、ボールを扱う運動を定期的に取り入れた。いろいろな大きさのボールを扱わせたり、的をねらわせたりすることでどの子もボールを扱うことに慣れてきた。スポーツテストのソフトボール投げ結果は、1m以上伸びた。</li> <li>・ 各学年で長縄の記録を競うことで、休み時間に自主的に練習するクラスが増え、運動への関心が高まった。</li> <li>・ 体育朝会や外部講師による体育の授業で短縄を行うことで、短縄の様々な技を体験することができ、短縄カードに意欲的に取り組む児童が増え、休み時間にも積極的に技の練習をしている児童が増えた。また、縄跳びカードを統一することにより、異学年での交流もあった。</li> <li>・ 用具を操作する活動を継続的にを行い、体の使い方を身に付けることができた。</li> <li>・ 体づくり運動を年間を通して帯で取り、体力と柔軟性の向上が図れた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ソフトボール投げの平均記録を、さらに前年より1m以上伸ばせるよう、指導計画を見直していく。</li> <li>・ 短縄カードにある技のポイントが分からない場合があったので、ポイントがわかるような資料を各クラスに配布したり、タブレットで参考になる動画を見られるようにしたりして、技が分からなくて諦めることがないように、意欲の継続を図る。</li> <li>・ 発達段階に応じた系統的な指導。</li> <li>・ 全学級が継続的に行っていく。</li> </ul>
② 授業改善		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 理数学習を中心として、毎時間の学習のめあてを明確にしながら、基礎・基本の定着を図ってきた結果、保護者アンケートの「確かな学力の向上」では<b>肯定的な回答が83%と、前年を4ポイント上回った。</b>児童アンケートの「授業の内容はよくわかりますか」では、算数も理科も肯定的な回答が90%を上回る肯定的な回答があった。</li> <li>・ 理科および生活科と算数科の問題解決型の学習をある程度水平展開し、問題解決型の学びが児童に定着し、主体的に問題に取り組む児童が多くなった。小グループでの発表方法を工夫し、児童が学び合いながら高めていく姿が見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎・基本の定着を一層図るために、習熟度別や課題別などの工夫をし、個に応じた指導をより充実させることが必要である。</li> <li>・ 理数学習の算数の問題解決型学習の研究をさらに充実させ、水平展開がよりつながりのあるようにする必要がある。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットPCなどのICT機器を各学年で積極的に使用するとともに、プロジェクター及び大型提示装置、実物投影機を使用することで、児童の興味・関心を高めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドリルパークなど、活用する機能に偏りがあった。使用している機器や機能がより広がり、より効果的な授業が展開できるようにしていく必要がある。</li> <li>・保護者アンケートのICTに関する項目では、肯定的な回答が77%であった。タブレットPCで、授業でさらに活用していくとともに、プログラミング教育の充実を図っていく。</li> </ul>
<p>③ 家庭との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの影響がある中でも、全体保護者会で学校の取組や家庭への協力について伝えた。また、安全安心メールを活用し、学校から保護者への連絡を行い、家庭との連携を途絶えさせないようにすることができた。</li> <li>・保護者アンケートでは、「学校は保護者にとって連絡や相談がしやすく、適切な対応をしている」において、肯定的な回答が82%であった。</li> <li>・学校ウェブサイトや Google Classroomにて学校・学年便り、保健室便りなどを毎月更新したり、書き初めなどの教育活動についてのオンライン配信を行ったりするなど、コロナ禍においても学校教育への関心を向けてもらい、学校の取組について地域や保護者に理解してもらうことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校保護者間連絡システム tetoru の全家庭登録を完了させ、保護者と連携が取れる体制を継続していく。</li> <li>・通知表が年に2回になるため、個人面談の回数が増えるが、それ以外でも日常の連携をさらに高めていく必要がある。</li> <li>・学校教育の取り組みを保護者に継続して伝え、タブレットを活用したオンライン配信による保護者限定公開などの活用を図っていく。</li> <li>・Google classroom に学校便り、学年便りなどお便りをアップしてペーパーレスを図るだけではなく、保護者に本校の実践などのさらに情報発信をして、現状を理解していただく必要がある。</li> </ul>
<p>④ 体力向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短縄、長縄の活動に学校全体で取り組んでおり、保護者アンケートで89%の肯定的な回答があった。一方で、児童の運動に対する意識が減退し、児童アンケートにおいて、「授業以外でも運動やスポーツをもっとしたいと思いませんか」の質問に肯定的な回答が80.8%と、昨年度より5ポイント下がった。</li> <li>・体育朝会を通して、準備運動や運動の質を高める取り組みなどを全教員で共有し、体育の学習に活かすことができた。また、外部の講師を招き、各種スポーツ教室を行うことで、児童の運動についての興味・関心が高まり、体力や技能の向上に成果が見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校全体での取組に加え、各学級での活動を充実させていく必要がある。</li> <li>・体力・運動能力・生活習慣等調査をもとに、児童の課題を把握し、その解決のために各種スポーツ教室を効果的に行う。また、教員の校内研修会を設け、児童の一層の体力向上を図る。</li> <li>・コロナ禍の影響もあり、児童が体を動かす機会をもちづらい状況であったが、少しずつ状況が変わってきた。引き続き学校全体で日々の体育学習に工夫しつつ、委員会などで児童が中心となって運動を喚起する活動を行っていく。</li> </ul>